

2019年3月3日 茅ヶ崎教会での分かち合い ルカによる福音6：39～45
テーマ 口は心からあふれ出ることを語る

突然ですがお尋ねいたします。なぜ日曜日にごミサに参加するのでしょうか？皆さんはいかがですか？ どんなことが頭をよぎりましたか？「教会の掟だから」「主日だから・・・」というように 「・・・だからミサに集まる」のではなく、「わたしたちはキリストの復活を祝い、共にいて下さるキリストに出会いたいから集まる」のですと、2月11日の藤沢教会での教区典礼研修会で話されました。いかがですか？

ネヘミヤ8章の10節に「主を喜び祝うことこそ、わたしたちの力の源」とあります。ミサに参加するのは呼び集められるからで、聖霊が一人ひとりの方を促して、今ここに集められたのではないのでしょうか？ 集会祈願で「ひとり子イエスは、ことばと行いによって、永遠のいのちへの道を示してくださいました。ここに集められた一人ひとりに聖霊を注いでください。きょう語られることばが、わたしたちを導くひかりとなりますように。…アーメン」と祈りました。

キリストの復活を共に祝い、キリストと出会うために。永遠のいのちへの道、私たちの目的地である神の国への道を、イエス様は示してくださいるので、このイエス様と共に人生を歩むと決断してキリストの弟子になったわたしたちですよね？だから一人でなく、共同体として一緒に歩み、祈りましょう！！

集会祭儀の初めに、司会者からお互いに挨拶をしましょうと招かれました。どんな気持ちでこの挨拶をなさいましたか？私たちはある時、心の中でイエス・キリストと出会う、共に歩むと決意して洗礼を受けたので、このいのちを仲間と共に歩むために、今日もごミサに参加しているのでしょうか。そしてお隣の方もうしろや前の方も、みんな「聖霊の住まわれている聖霊の神殿です。」尊敬の気持ちといつくしみの心での挨拶でしたか？

この集いの中に、もう一人大切な方がいらっしゃいます。マタイの18章に「二人または三人が私の名によって集まる場所には、私もその中にいるのである。」と、復活された主イエスさまと一緒にいて下さるのです。気づいていますか?? 「主はみなさんとともに」とごミサ中に何度、注意をよびおこされているでしょう。

フランシスコ教皇様が11月に日本を訪問されるというニュースは、私たち一人ひとりにとって大きな喜びです。どんな準備をしてお迎えしましょうか？今のところはわたしは「祈り」をすることでしょうか？ 先週2月24日のカトリック新聞の一面の下段にこんな記事がありました。

教皇の一般謁見講話—「祈りは自分のためではない」と。

ご紹介しましょう。「祈りは人と神の間の単なる個人的で親密な対話ではなく、キリスト信者が主の前に他の人の必要を指し示す機会になる。」と教皇フランシスコは指摘した。

「神との対話の中に利己主義が入り込む余地はありません」。「まるでこの世で自分たちだけが苦しんでいるかのように個人的な問題を並べ立てる場ではありません。兄弟姉妹の共同体の祈りでなければ、神に向かう祈りにはなりません。」

「主の祈り」には、「私」という言葉が出てこないのは印象的と言われ、すべての祈りが「飢えを満たすための食べ物など」、人間にとって最も基本的な問題が複数形「わたしたち」の願いとなっています。

今この世界を見渡せば、毎日心の痛むことがたくさん起こっています。わたしたちはどれほどそのことを祈っているでしょうか？私の心はどのくらい広くこの世界の痛み、嘆き、危険、喜びに開かれているでしょう。物の見方が利己主義ですか、それとも回心して神様の眼差しで見つめているのでしょうか？

教皇様の訪日に向かって、祈ることからといましたが、その前に教皇様の世界へ向けてのメッセージを知るために、様々な情報を知って、カトリック新聞を読むとか、カトリック中央協議会、カトリック「あい」ヴァチカン放送などの HP 検索して、祈りが求められていることを知り、実践してはいかがでしょうか？

教会の全ての活動を支えるのは、私たち一人一人の真心から神様と向き合っているのいりではないでしょうか？求めるなら、神様は必ず答えてくださいます。子供のような信頼の心で、奇跡を祈り求めたいと思います。それはとりもなおさず、茅ヶ崎教会のビジョン・ミッションの実践ではないでしょうか？

